



MYタウン

赤坂 AKASAKA 青山 AOYAMA

地域情報誌

「MYタウン赤坂青山」は、地域の人が自ら企画・取材し、編集する地域情報誌です。赤坂青山の身近で魅力ある情報の発信を目指します。

特集 老舗

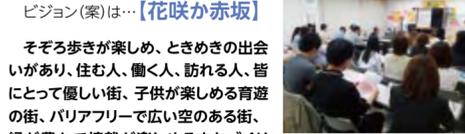
～赤坂・青山の和菓子～



東日本大震災
その時、あなたは？

【赤坂通りまちづくりビジョン(案)説明会】をしました

「赤坂通りまちづくりの会」は、赤坂のまちをより良いまちとしていくための赤坂地域のまちづくり組織です。5月21日に、赤坂いきいきプラザ(旧赤坂福祉会館)にて、「赤坂通りまちづくりビジョン(案)説明会」をしました。赤坂通りまちづくりビジョン(案)の対象地域は「旧日大三高通り沿道」です。



ビジョン(案)は…【花咲か赤坂】

そぞろ歩きが楽しめる、ときめきの出会いがあり、住む人、働く人、訪れる人、皆にとって優しい街、子供が楽しめる育遊の街、バリアフリーで広い空のある街、緑が豊かで植栽が楽しめるまちづくりを目指します。「美しいこと」「栄えること」の意味から【花咲か赤坂】をコンセプトとします。

港区まちづくり条例を活用した地区まちづくりビジョンは、①区域内の在任区民の過半数の合意が必要。②事前に対象区域内の区民に周知し、その意見を聞いてまとめたものであること。—などの登録要件があります。ビジョンが登録されると、次のステップであるまちのルールづくりに進めます。

今後、ビジョン登録、ルールづくりが行われ、活動が軌道に乗った後には、対象地域を広げていく予定です。赤坂のまちを良くしていく第一歩ですので、主旨をご理解のうえ、「赤坂通りまちづくりビジョン(案)」に賛同していただければありがたく存じます。

赤坂通りまちづくりの会・今野信三

赤坂地区総合支所が独自に取り組む地域事業について紹介します

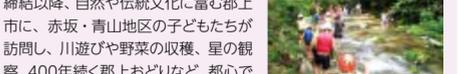
第2回 未来に向け共存できるまち 赤坂・青山 ～コミュニケーションを育むまち～

「地域事業」とは… 地域の課題を地域で解決し、地域の魅力をより高めるため、赤坂地区総合支所が、地区版基本計画を策定する上で、区民参画組織からの提言を踏まえ創出した6事業です。政策の方向に沿って、3つの分野に分類しています。今回はその中の「はぐくむまち」の中から2つ紹介します。

●はぐくむまち(福祉・保健・教育)

②特性を生かした文化芸術の振興

岐阜県郡上市との交流事業 港区と岐阜県郡上市は、平成20年に交流基本協定を締結しました。協定締結以降、自然や伝統文化に富む郡上市に、赤坂・青山地区の子どもたちが訪問し、川遊びや野菜の収穫、星の観察、400年続く郡上おどりなど、都心では体験できない「田舎の夏休み体験教室」を実施しています。

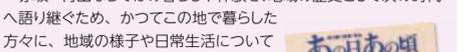
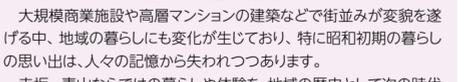


【平成23年度実施予定内容】 ●日にち 8月2～4日(火～木) ●参加者 赤坂小・青山小・青南小に通う4～6年生の希望者60名

まちの歴史伝承冊子の発行

昭和初期の赤坂・青山地区には、華やかな花柳界、学校や車施設などがあり、時代の顔ともいえる街並みでした。大規模商業施設や高層マンションの建築などで街並みが変貌を遂げる中、地域の暮らしにも変化が生じており、特に昭和初期の暮らしの思い出は、人々の記憶から失われつつあります。

赤坂・青山ならではの暮らしや体験を、地域の歴史として次の世代へ語り継ぐため、かつてこの地で暮らした方々に、地域の様子や日常生活について聞き取り、その結果を冊子にまとめます。



昭和13年 青山小学校庭での朝会の様子
【冊子発行準備中(配布中)】

【平成23年度実施予定内容】 ●冊子の発行

次号は「かがやくまち」の「減らそうCO2」と「にぎわうまち」の講談事業を紹介(予定)します。

打ち水用 柄杓と桶を貸し出します! 節電にも効果的

夏祭りなど地域のイベントで打ち水をしませんか? 赤坂地区総合支所では、赤坂・青山地区で活動する団体や企業に打ち水用柄杓と桶(30組)を貸し出しています。江戸文化の知恵「打ち水」で赤坂・青山の温度を下げましょう!詳しくは下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ/赤坂地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話:03-5413-7013

赤坂警察署からのお知らせ

振り込め詐欺再急増! 「だまされたふり作戦」にご協力を!

こんな「ウソ電話」がかかってくたら、この時こそが、犯人を捕まえる絶好のチャンスです。

犯人からの「ウソ電話」だと気づいた場合は、あわてずに、そのまま、だまされたふりを続けてください。そして、電話を切った後、110番通報してください。すぐに警察官が駆けつけ、犯人をおびき出し、捕まえます。「だまされたふり作戦」にご協力をお願いします! また、留守番電話にしておくことと犯人から二度とかけさせません。

車上狙いに注意しましょう!

- 短時間でも離れる時は必ず旋回しましょう。
- 車内には貴重品類を置かないようにしましょう。
- お問い合わせ/赤坂警察署防犯係 電話:03-3475-0110(代表)

赤坂消防署からのお知らせ

夏に多発する事故から 尊い命を守ろう

梅雨から夏の季節は、水辺の事故や野外活動による熱中症が増える時期です。

熱中症は、炎天下でのスポーツのほか、直射日光に当たっていない室内など風通しが悪く湿度の高い場所でも発症します。また、環境温度の急激な変化に身体が対応できず、熱中症を発症しやすくなります。

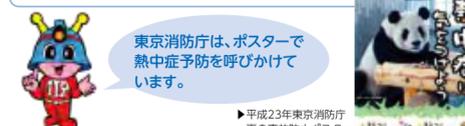
特に、電力不足が予想される今年は、エアコンの使用を控えるなどの対策が求められるため、屋内においてもより一層の熱中症対策を講じる必要があります。また、暑さの中で少しでも体調不良を感じたら、無理をしないようにしましょう。

●熱中症を防ぐために●

- ①外で活動するときは
・外出時は、なるべく帽子や日傘で直射日光を避ける。
・こまめに休憩し、水分補給をする。
・炎天下や非常に暑い場所では、長時間の作業やスポーツを避ける。
- ②屋内では
・窓際などの日当たりのよい場所を避ける。
・風通しをよくして、高温多湿にならないように気をつける。
・動いていなくても、スポーツドリンクなどの水分補給をする。

●熱中症に対する応急手当の方法●

- ・風通しのよい日陰や、冷房の効いている場所に移動する。
- ・衣類をゆるめて、体を楽にする。
- ・スポーツドリンクや薄い食塩水(500mlに1gの割合)を飲む。
- ※意識障害などで自力で飲めない場合は無理に水分補給をする必要はありません。
- ・意識がもうろうとしたり、高熱となった場合などは、早めに医療機関で受診する。



●お問い合わせ/赤坂消防署 電話:03-3478-0119

あの人この人 地域のこと

町会・自治会に加入しましょう!
●お問い合わせ/協働推進課 協働推進係 電話:03-5413-7272

赤坂 赤坂新三町会

赤坂新三町会は、みすじ通りと一ツ木通りに挟まれた町域から赤坂通りを越えた、緑と街の華やざびを感じられるところ。江戸時代以前は一ツ木村、明治時代には繁華な商店街となり、慣習上、一ツ木通りと呼ばれるようになりました。華やかさとともに、商店も増えていき、戦前には現在の姿を思わせる街並みとなりました。

また、歴史的には、坂本電馬とともに幕末から明治時代に活躍した勝海舟が、新婚時代を過ごしたゆかりの町です。赤坂溜池の福岡藩敷内に住む蘭学者永井青崖に弟子入りし、その蘭学修行中に辞書「ドーフ・ハルマ」を筆写した話は有名です。

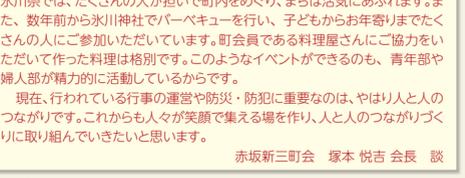
街の華やざびと歴史を感じさせる赤坂新三町会。現在も商店が多いため、町会会員も事業所が多く加入しています。

これからも、防災活動や環境美化活動を通じて、住民と事業所の町会員にとどまらず、近隣町会、地元企業と連携を深め、きれいで安全なまちづくりと地域コミュニティの推進に取り組んでいきます。

赤坂新三町会には、緻密な彫刻・細工がなされた大きなお神輿があります。氷川祭では、たくさんの方が担いで町内をめぐり、まちは活気にあふれます。また、数年前から氷川神社でバーベキューを行い、子どもからお年寄りまでたくさんの方にご参加いただいています。町会員である料理屋さんにご協力をいただいで作った料理は格別です。このようなイベントができるのも、青年部や婦人部が積極的に活動しているからです。

現在、行われている行事の運営や防災・防犯に重要なのは、やはり人と人のつながりです。これからも人々が笑顔で集える場を作り、人と人のつながりづくりに取り組んでいきたいと思ひます。

赤坂新三町会 塚本 悦吉 会長 談



青山 南青山一丁目町会

南青山一丁目町会は、青山霊園の東側、外苑東通りの西側に位置しています。緑豊かな雰囲気と閑静な住宅街として定着している現在からは想像できませんが、かつては陸軍の射撃場として整備され、弾止めのために造られた土手は「鉄砲山」と呼ばれ、近所の子どものための遊び場となっていた場所でした。戦前には埋め立てられ、道路整備も行われ、環境は大きく変わりました。

地域コミュニティの希薄化が問題となっている今般において、南青山一丁目町会では、お互いの顔と顔を覚えてもらうような取組を積極的に実施しています。毎年実施している親睦旅行は町会自慢の行事であり、交流の場となる欠かせないイベントとなりました。日頃から行政機関との連携も密に行っており、平成21年度から実施している行政との情報交換会では、熱のこもった意見交換が行われ、住みよいまちづくりのため町会員が一丸となって課題解決に取り組んでいます。

「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に、南青山一丁目町会では様々な活動に取り組んでいます。地域のつながりの大切さを一番に考え、誰もが簡単にできる「あいさつ運動」を推進しています。「おはよう」「どうも」など、一言の挨拶で顔見知りになることができ、日頃の活動の積み重ねによって、犯罪の未然防止や地域の賑わい創出など大きな連帯感を育むことができます。

また、次代を担う若い世代の参加に大いに期待しています。若さと行動力が加わり、地域にさらなる活気と安心感をもたらします。

今後も、多世代の交流も含めて、地域の輪がさらに広がるよう趣向を凝らした町会活動に取り組んでいます。

南青山一丁目町会 篠塚 二美夫 会長 談

赤坂・青山にある大使館・観光局【トゴ共和国編】

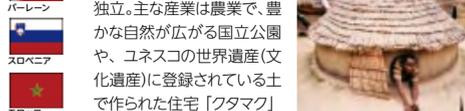
← Republic of Togo



トゴ共和国大使館 〒107-0052 東京都港区赤坂7-4-4
http://www.ambatogojapan.net/

昨年10月、赤坂に在日トゴ共和国大使館が新設されました。トゴは西アフリカに位置する、約45の部族が暮らす国です。それぞれの部族には伝統的な祭礼や民族儀式があり、1年間を通して各地区で開かれているそうです。

1960年にフランスから独立。主な産業は農業で、豊かな自然が広がる国立公園や、ユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されている土で作られた住居「ワタマク」は世界的にも有名です。



「トゴの国民は明るくて、親切な人々です」とボジョナ・アレブビア・デラリ・アレン臨時代理大使は話します。

ホームページのフォトギャラリーでは、生き生きと暮らすトゴの人々の姿を垣間見ることができま

す。

高貴な男性の衣装である「バタカリ」に身を包んだボジョナ臨時代理大使

食から知るトゴ

一般的な食事はトウモロコシの粉をお湯で溶いた練り粥と、野菜や肉、魚などをスパイスとともに

フェツリ・マナ・ゴンボに煮込んだシチューでできた「フェツリ・マナ・ゴンボ」。シチューの種類は豊富で、その地域によって異なるといま

す。また、大西洋に面しているため、魚もよく食べるそうです。

部族ごとのお祭では、伝統料理が並びます。例えば、「ハビエ」というお祭りには、この時にだけ食べる特別なソースが供され、男性しか食べることができません。

トゴでは、料理は女性の仕事です。小さい頃から料理を手伝い、嫁く頃には、一通りのトゴ料理を作れることができるそうです。

トゴの子どもの好きな食べ物と、トゴの子どもたちが好きな食べ物とを比べると、「お菓子などの甘いものごはんと」の答え

です。子どもたちが甘いものを好むのは、万国共通のようです。

南青山一丁目町会 篠塚 二美夫 会長 談

青山霊園眺望 ~人と歴史~

第8回 エドアルド・キヨッソーネ (Edoardo Chiossone) (1833年~1898年)

外人墓地 南1種イ六側17

青山墓地のほぼ中央に外人墓地があります。ここには日本の近代化に貢献された外国人や家族が永眠されています。

キヨッソーネは、日本の印刷文化の発展に尽力しました。明治維新後の新政府に大変貢献した方で、その作品、技術は現代の紙幣印刷にも継承されています。

イタリア・ジェノバで生まれたキヨッソーネは、リブリア美術学校で銅版画の彫刻技術を学びました。パリ万国博覧会では、彼の銅版画は銀賞を受賞しています。その後、ドイツに渡り、紙幣造りに専念していました。

明治8年(1875)に新政府は、外国からの優れた技術者「お雇い外国人」として、彼を招きました。彼は日本で、紙幣、切手、証券などの製版、印刷を指導しました。改造紙幣(神功皇后礼)壹圓券など日本で製造された初期の近代的紙幣の肖像彫刻は、彼の手がけた作品です。

本格的に大型の肖像を採用したわが国で初めての紙幣で、しかも美しい日本女性の肖像なので、この紙幣は当時の人々に愛されました。

また彼は、明治政府の要人の肖像画を数多く残しました。宮廷画家としても活躍し、多数の銅版肖像画を製作し、全国に配布された明治天皇の「御真影」や、大久保利通、岩倉具視など明治の元勳たちの肖像画は、みな彼の手に成ったものです。

教科書などで定着している西郷隆盛の肖像は、隆盛が写真嫌いで写真が残されていないため、弟の西郷従道といこの大山巖を合成してキヨッソーネによって作られました。

エルハート凸版を用いて製版された小判切手もデザイン性が高く、当時のヨーロッパスタイルでした。

このように日本の近代化の礎になった技術者キヨッソーネは、日本を大変愛し、生涯日本に居住して、1898年東京の麹町の自宅で逝去され、青山墓地に静かに眠っています。

写真提供 財団法人印刷朝陽会



再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

再生素材を使用しています

みなとタバコルールにご協力ください

●「みなとタバコルール」とは…?

「みなとタバコルール」は路上喫煙、歩行喫煙やタバコのポイ捨てを罰則で取り締まるのではなく、区、区民、企業などの協働により、啓発活動を実施し、喫煙者のマナーやモラルの向上を図ることで、区内全域での路上・歩行喫煙やポイ捨ての禁止を目指すものです。

歩行喫煙・路上喫煙・タバコのポイ捨てはやめましょう!

ルールの内容

- ① タバコを吸わない方の健康に配慮します
- ② 指定喫煙場所以外での喫煙をしません
- ③ 吸殻のポイ捨てをしません

適用する範囲

港区内全域の道路、公園など屋外の公共の場所
※平成23年4月1日から港区の児童遊園、遊び場は全面禁煙です。歩行喫煙・路上喫煙・タバコのポイ捨てはやめましょう!

●啓発キャンペーンにご協力ください

赤坂地区総合支所では、地元町会、自治会、地元住民や企業の方々と協働して、放置自転車・放置バイクの放置状況の解消や「みなとタバコルール」の周知や徹底を行うために、地域清掃や啓発活動を定期的に実施しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

清掃や啓発活動を一緒にしてみませんか? 詳しくは… 赤坂地区総合支所へ

清掃活動の様子

キャンペーン受付の様子

広報活動もしています

●タバコルール推進員が巡回しています

港区では、タバコルール推進員が区内各地域を巡回し、路上・歩行喫煙者の指導および啓発活動を行っています。歩行喫煙者や吸殻のポイ捨てをしている方を見つけた場合は、タバコルールを守っていただきますようお願いをすることがあります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

見たぞー! マナー違反うらめしや~ 一人ひとりが意識すれば 港区がきれいになるぞ~ 皆様の協力をお願いします

●お問い合わせ/赤坂地区総合支所協働推進課 電話03-5413-7272

赤坂青山地域情報誌 第16号
編集: 港区赤坂・青山地区タウンミーティング地域情報の発信・交流分科会
発行: 港区赤坂地区総合支所協働推進課 発行部数: 2,200部

この情報誌についてのご意見等ございましたら、ご一報ください。
赤坂地区総合支所協働推進課
電話: 03-5413-7013 FAX: 03-5413-2019



特集 老舗

～赤坂・青山の和菓子～

赤坂・青山界隈で見かける小さな佇まいの和菓子屋さん、関東大震災、東京大空襲などを経て、なおも長きにわたって地域に息づく、食文化を支える存在です。「和菓子は視覚・味覚・触覚・嗅覚・聴覚の総合芸術」とは、虎屋の16代目亭主の言葉。訪問者へのもてなし、取引先への手土産、自分へのご褒美に……。私たちの生活を鮮やかに彩る和菓子の老舗店の暖簾をくぐってみましょう。



とらや 赤坂

〒107-8401 赤坂4-9-22
電話 03-3408-4121(代)
http://www.toraya-group.co.jp/

とらやの創業は480年ほど昔の室町時代後期の京都。明治2年(1869)の東京遷都をきっかけに東京にも出店し、ここ赤坂には明治12年(1879)に店を構えました。「おいしい和菓子をお客様に喜んで召し上がって頂く。それが社員皆の想いです。」お話を伺った松平斉忠広報課課長の言葉の端々からその気持ちが熱く伝わってきました。長い歴史をくぐり抜けたその背景には、老舗とは相対する柔軟な経営方針があります。21世紀に入り、「とらやがつくる、もうひとつのお菓子」をテーマとしてTORAYA CAFÉが生まれました。この6月14日には、青山一丁目の新青山ビルにもTORAYA CAFÉ青山店がオープンしています。とらやの歩みは止まることを知りません。

また一方、地域貢献として、赤坂ひよこクラブを通じての地域清掃や赤坂氷川神社での餅つき大会などを行っています。その歴史は今も赤坂・青山の地で刻み続けられているのです。お客様への想い、和菓子への想い、そして地域への想い。老舗を形づくっていたものは、そこにいる「人」への「想い」でした。これからも「よりおいしいお菓子」を作り続け、進化していくのだと感じました。

虎屋文庫

五感の総合芸術といわれる和菓子。その和菓子の歴史などについて、現在、虎屋文庫の研究主幹であり、東京藝術大学の卒業論文で「和菓子の意匠」を書かれた中山圭子氏にお話を伺いました。

菓子とは本来、木の実や果物などを指す言葉。材料からいえば日本古来の餅や団子も原形といえます。飛鳥～平安時代には遣唐使が唐菓子を、鎌倉～室町時代には中国から禅僧が喫茶の風習とともに点心を、そして戦国時代にはポルトガルやスペインの宣教師や商人が南蛮菓子を伝えたことによって、菓子の世界に大きな変化がもたらされました。点心のなかでも、羊羹はもと羊の肉の汁物でしたが、肉食を禁じられた禅僧達は小豆などを使った精進物を作って食べるようになり、後に羊羹は料理から菓子へと変化します。羊羹といえば、とらや。特に「夜の梅」はとて有名ですが、現在のよ

松月 赤坂

〒107-0052 赤坂4-3-4 松月ビル
電話 03-3583-7307

「松月」は、赤坂一つ木通りのTBS近くにあります。大正7年創業より、手作りで心をこめて、出来立ての和菓子を提供してくださるので地域に愛され続けています。3代目社長西尾健さんが温かく迎えてくださいました。TBSのバラエティ番組(ドリフターズの8時だよ、全員集合など)に、小道具として、お盆や下駄のお菓子を作り提供したこともありました。赤坂小学校の総合的な学習の時間で、5年生が和菓子を企画提案しました。子供が考えた夢のある和菓子作り、積極的に協力してくださり、「松月」で実際に作って、かつ店頭に並べてくださいました。老舗でありながら地域の子どもたちが気軽に来店に来て、愛されていることは、親しみやすいお店の雰囲気にあると思います。季節感を大切にしている「松月」は夏に向けて、くず桜や、水ようかんが、また2階喫茶室では、こだわりの小豆を使った氷あずきが人気です。

うな寒天を使った煉羊羹が生まれたのは江戸時代後期になってからだそうです。江戸時代中期には、京都で上菓子が発展し贈答や茶会に用いられるようになります。これが、私たちが現在目に見ている美しい生菓子の原形です。そして、江戸時代後期には、年中行事の折りに菓子を食べる習慣が庶民にまで定着します。例えば、雛祭りの菱餅ほか雛菓子、端午の節句の柏餅や粽(ちまき)など、今なおこの習慣は残っています。和菓子は、病や災いを避けるために、また縁起をかついで食されたものであり、その一方で見た目の美しさを楽しむものであり、私たちに「おいしい」という幸福感をもたらすものなのではないかと思えます。「私たちが日本の美しさを感じる心がある限り、和菓子は受け継がれていくことでしょ。』という中山さんの言葉が大変印象的でした。



虎屋文庫 展示風景2010年

塩野 赤坂

〒107-0052 赤坂2-13-2
電話 03-3582-1881
http://www.siono.jp

風情ある老舗のお菓子「塩野」は山下交差点近くの静かな場所にあり、昭和22年(1947)創業以来65年近くにわたり、今は二代目のご主人が暖簾を守っておられます。場所柄、当初は多くの料亭からご贖員にされていました。その後、TBSの「時事放談」という番組で供される和菓子が人気を博し、広く知られるようになりました。こだわりは上質さと色づかい。三代目となる息子さんが職人さんとともに、手作業で上品で繊細な味を作り出しています。人気商品などは、午前中に売り切れてしまうこともあります。節句のための和菓子などは、日本古来から伝承されている大切な行事としての意味を込めて形にしています。ご主人は茶の湯にも造詣が深く、お客様をもてなす謙虚な心をとても大切になさり、働く方々すべてがその心をお持ちのようです。1店舗のみ丁寧な気持ちで注ぎ、老舗の伝統の中でゆるぎない自信に基づく「変わらない」というこだわり。赤坂において、いぶし銀のような輝きを持つ「塩野」さん。日本人としての和の心を、おいしく楽しみながら、ひとときでも感じることが出来る場所であり続けてほしいと思います。

青野 赤坂

〒107-0052 赤坂7-11-9
電話 03-3585-0002
http://www.akasaka-aono.com/

今年、創業112年を迎える老舗「赤坂青野」。明治32年(1899)当時、赤坂付近に赤坂御所と多くの邸宅や料亭があったので、和菓子店も多かったとか。その後、戦後の時代をのりこえた店は、東日本大震災で「和菓子の力」を再確認したそうです。赤坂の街の変化、ライフスタイルの多様化に「伝統の力」が生きています。おなじみの「青野」の暖簾、手書きの「おお知らせ」に誘われて、ジャズのBGMが流れる店内へ。銘菓「赤坂もち」は、外国人にも人気の商品のひとつ。エコな大豆の「こまめなえこまめ」をはじめユニークなネーミングの商品にも目がいきます。街歩きに疲れたら、お気に入りの和スイーツとサービスのお茶でほっとひと息。日本の四季を感じながらのひとときを過ごしてみませんか。

浅田家 赤坂

〒107-0052 赤坂2-10-4
電話 03-3583-3445

三代目、下村宏さんが継がれて50年。二代目のお父さんは明治40年(1907)に生まれ、氷川小学校(現赤坂小学校)を卒業してその後家業に。明治の初めごろ、和菓子組合の名簿に浅田家初代の名が載っているの、その頃から商売しているの、か、つて、赤坂田町といえば、たくさんの料亭、待合、芸者屋などがあり、口の肥えた経営者、料理人、板前さんから大変喜ばれたそうです。最近では、溜池山王、赤坂見附、国会議事堂前の地下鉄の各駅に近しいという立地条件に恵まれ、お土産やお茶の友として親しまれています。豆大福はやや重め、甘みしっかり、やや塩味、ちよっと大ぶり、餅はやわらかい弾力があり噛み切れる。赤碗豆はしっかり蒸してあります。串団子はタレが抜群。もちも風味豊か。おはぎはざっしり重い。桜餅、柏餅は季節の香りいっぱい。下村宏さん、弟・武さん、お嫁さん、息子さんの一家4人で今の味を守っています。

相模屋 赤坂

〒107-0052 赤坂3-14-8
電話 03-3583-6298
http://www.akasaka-sagamiya.co.jp/

寒天、不思議な食物です。無色透明、無味無臭、いつごろから食べられるようになったのか……。天草(てんぐさ)から作られ、その粘り性を利用して、羊羹、ゼリーなどの材料となります。その寒天を使ったあんみつ、ところてん、水ようかん、豆かんやくちもちの5種類だけを、明治28年(1895)以来、代々作り続けているのが赤坂・相模屋です。ご主人は四代目。家族経営で、良質の天草は1年分の在庫を仕入っておられるとのこと。毎日決まって作られる範囲で販売されています。「身体が覚えている」と話される職人気質。食欲のないときでもつるりと通る喉ごしの良さと風味。シンプルな味だからこそ、ごまかしのために、社員と共に努力を惜しみません。」とおっしゃる砂糖菓子のように優しい現社長長米山ひろみさんに引き継がれているように感じました。「大岡越前中」は、赤坂に居住していた大岡越前の守の名前に因んで、パリッとした皮と甘さを抑えたこだわりの小豆を使ったあんの絶妙なバランスで、ロングセラー商品として、地域に愛されています。お客様に愛される精神は、今後も繋がっていくと思います。

雪華堂 赤坂

〒107-0052 赤坂3-10-6
電話 03-3585-6933
http://www.sekkado.co.jp/

赤坂雪華堂は明治12年(1879)の創業。当時の主力商品であった金平糖を、徳川慶喜公が「雪の華のよう」と讃えたことが名の由来とか。その金平糖も、第二次大戦中に砂糖の不足で製造困難となり、昭和18年(1943)には店舗が練馬に疎開。終戦まで休業すること。このような時代背景の中、独自の甘納豆の製法を開発。素材本来の風味を生かした種々の甘納豆は、昭和25年ごろから看板商品となりました。その後、水菓子、饅頭がランナップに加わり、豆を包んだパイやどら焼きなども登場しました。老舗ならではの信頼から赤坂本店では今昔変わらず、進物用などとして甘納豆の人気が高い一方、他店舗では饅頭類など個包装の商品が好まれるところもあるようです。一つの揺るぎない軸を持ちながらも、柔軟に地域や時代と交流していく……。昭和40年代に再開した赤坂本店。風格を携えながらも、ふと立ち寄りたくなる優しさが、納豆の甘さとともに人々を惹きつけるのでしょうか。

鳳庵 赤坂

〒107-0052 赤坂4-2-2
電話 03-3585-1001
http://www.houan.jp/

赤と黒で統一された店舗の「鳳庵」は、日本初の女優の松井須磨子の実兄が初代社長ということで知られています。お店には、文化人、芸能界のファンも多く訪れます。戦後、焼け野原になった赤坂に、配給された砂糖で、ドラ焼を焼いて、地域の方々にもふるまい、喜ばれました。このドラ焼きの甘い香りが忘れられない方も多いそうです。人に喜ばれるお菓子を作るという精神は、「創業は明治7年(1874)という伝統を守りながらも、いつもお客様のことを第一に考え、情熱をもって新しいお菓子に挑戦し、美味しいお菓子を目指すために、社員と共に努力を惜しみません。」とおっしゃる砂糖菓子のように優しい現社長長米山ひろみさんに引き継がれているように感じました。「大岡越前中」は、赤坂に居住していた大岡越前の守の名前に因んで、パリッとした皮と甘さを抑えたこだわりの小豆を使ったあんの絶妙なバランスで、ロングセラー商品として、地域に愛されています。お客様に愛される精神は、今後も繋がっていくと思います。

紅谷 青山

〒107-0062 南青山3-12-12
電話 03-3401-3246

外苑前から表参道に向かって青山通りを進むと、「創業大正貳弍年」と記された暖簾を掲げる和菓子屋さんがあります。それが紅谷さんです。大正12年(1923)創業ということは、創業88年目で、現在のご店主・青木博司さんは三代目。元々、江戸中期から続く小石川の本店の青山支店として現在地に出店したのが始まりだそうです。「和菓子は季節とともにある」と言われ、お店を代表するお菓子は1品には絞らないとのこと。和の心には西洋には薄い「季節の変化を愛する」すばらしさがあふれているのでした。また、「老舗かどうかは人様が決められることで、自分で意識することはあまりないとも。ただ、日頃心掛けていることは、一に伝統の味を変えない、二に季節の変化を大切に、三に「手作り」にこだわる(気温や湿度の微妙な変化に対応するのは未だ機械では難しい)、そして何よりも手抜きをしないことだとおっしゃいました。微妙な味の違いははっきり言うてよく分かりませんが、とにかく、一つひとつが「美味しい」んです。時代の変化とともに失われるものも少なくありませんが、我々日本人が和の心を失わない限り、和菓子とその匠の文化はいつまでも、ここ青山に生き続けることでしょう。

菊家 青山

〒107-0062 南青山5-13-2
電話 03-3400-3856
http://home.h00.itscm.net/kikuya/

青山・高樹町通りにあり、店の前に1本の柳の木が新緑の枝を垂らして立つ。昭和10年(1935)創業、今は二代目店主のもと、茶会席専門の和菓子店として、茶を嗜む人や茶道関係の人々に深く愛されています。かつて青山在住のエッセイストにして劇作家だった、故向田邦子さんも、こよなくこの店をご贖員にされ、夏場には水羊羹を所望されたと言われます。茶席の和菓子は殊のほか厳しい評価を受けるので、作るのにも、注文を受けて2~3週間も戴きたいと、女将の秋田隆子さんは言われます。それは、季節・温度・湿度・注文主の茶会席の内容に左右される上生菓子だからです。千利休以来の和菓子の伝承を守り、今なお数多くの茶会席用に納められ、関西から注文があるのも頷けます。しかし「京風」ではなく「東京風」をめざしていると言われます。さらに子どもが「うまい!」と言えばそれは優れた和菓子、特に酒好きの男の人が「これはうまい!」と言えばそれは本当に良い菓子です。もやもやの端正な仕上げ、あっさりした甘さ、シャキッと、しかもさらりとした舌触りとしっとり感、懐紙からすると離れる仕上げは「こしあん」の作り方の極意。「東京風」と言われるゆえんです。店の前のしだれ柳のごとく、時代の流れに柔軟に対応し、今なお茶会席を愛する日本人の心をとらえ、凛と生き続ける和菓子専門の店としての風格を感じました。

東日本大震災 その時、あなたは?

- 1 自宅で夕食の支度を終え、食事をしようと思ったところでした。テレビで緊急地震速報を見て、急いでダンスを押さえました。(南青山在住・男性)
- 2 緊急地震速報が出たら、自分の身を守ることを第一に考えましょう。ダンスなど大きな家具には近づかないほうがよいでしょう。
- 3 屋内での買い物中で、店主にはビル内にいれば安全だといわれましたが、大きく揺れて不安でした。(赤坂在住・女性)
- 4 大勢の人が一気に避難行動をとると、集団転倒など思わぬ被害に巻き込まれる危険があります。係員の指示に従い、バッグなどで頭部を保護し、自分の身を守りましょう。
- 5 高齢で一人暮らしのため、自宅では不安なので避難所に行き、そこで1泊しました。(赤坂在住・女性)
- 6 大きな地震の後は必ず余震があるため、不安に思われる方も多いと思います。総合所にて配布している「港区防災地図」を参照し、お住まいの地域の避難所などをあらかじめ確認しておきましょう。
- 7 区内に勤めている親族が帰宅困難になったため、自宅に受け入れられました。(赤坂在住・女性)
- 8 銀行のATMが使えず、お金を下ろすのが大変でした。(赤坂在住・女性)
- 9 家族の安否確認をしたくても、携帯電話が通じなくて困りました。(複数回答)
- 10 震災時は電話が輻輳(ふくそう)し、つながりにくくなります。携帯電話各社が提供する災害用伝言板サービスやSNS(ツイッター、フェイスブック等)、あらかじめ安否の確認方法について話し合っておきましょう。また、通話はできないけれどメールは使用できたという声もありました。
- 11 高層ビルにお勤めの方が避難した時、公園がいっぱいになり、学校の校庭にもたくさんの人が来て、生徒の対応と避難者や帰宅困難者の対応をしたそうです。(南青山在住・女性)
- 12 買い物で家に帰る途中、道路は大混雑し、集団転倒などの思わぬ被害に巻き込まれる危険性があります。また、緊急車両などの通行の妨げとなり、応急対策活動に支障が生じる可能性があります。「むやみに移動を開始しない」を基本とし、個人、事業所それぞれが事前の備えをしておくことが重要です。

確認しよう。大震災発生時の対応と備え

地震が発生したら	事前の備え	帰宅困難者心得
●机の下に隠れるなどし、身の安全を確保する	●3日分の飲料水、食糧の備蓄	●むやみに移動を開始しない
●外出の場合はバッグなどで頭部を保護する	●家具の転倒防止対策	●駅など人が集まる所には行かないようにする
●火の始末は揺れがおさまってから	●安否確認手段について家族で話し合う	
●あわてて外に飛び出さない		

次号(17号)では災害時の防災について特集予定です。